

「一流になりなさい。それには、一流だと思込むことだ」という本からです
人間、生まれたからには必ず役割をもっている

「何のために働くのか？ 給与のためではないな・・・自分のためかな・・・」
初めて会った船井幸雄先生に「君は、何のために働くのだね？」と問われて思いをめぐらせて黙ってしまった
私に、先生が発した次の言葉は、一生忘れない私の宝になるものだった。

「人間、生まれたからには必ず役割をもって生まれてくるものだよ」
先生と会った数分後、まだ 22 歳の学生に先生は、労働観、死生観を語っていたのです。私は船井先生に「人
間はなぜ生まれ、なぜ死んでゆくのでしょうか」、そんな問いかけをしたことがあります。

これに対して先生は、明るい声で次のように答えました。「人間は生成発展するために生まれたんだよ。そして
新しい成長をする場を得るために死んでゆく」長男が発達遅滞という重い障害を背負って生まれてきた、その
ことを先生に相談したときのことでした。このときの会話はまたくわしくお伝えすることにします。

世の中の出来事に不必要なことは一つもない。どんな出来事も、人間に何かを学ばせるために起こる、役割を
もって起こるのだと先生はことあるごとに語ります。ましてや人間は、どんな存在であれ、役割をもって生ま
れてくる。不必要な人間など一人もいない。それが先生の間観の基本です。人間にとっての一番の悲しみは、
嫌われ疎まれることではない。無視されることだと言われます。船井先生の間観は、人は生まれながらにし
て、役割をもって生まれてくることという点にあります。その役割こそが、今生学び立ち向かい、決して逃げ
ることなく徹するべきということなのです。

いま生きるなかで果たすべき役割に目を向ければ、幸せな人生が天から贈られるのだと教えられる最初の入り
口がその言葉でした。「私のような人間でも役割をもって生まれたのでしょうか？」まるで引き込まれるように、
そう問いを発する自分がいました。「君だって、誰だって、役割をもって生まれてくるのだよ」生まれるとい
うことはそういうことなのだよ。そう笑顔で語り、船井先生は私の顔を静かに見つめました。

夕陽は輝きを失いはじめ、東京タワーの脚は存在感を失って窓の外に黒っぽく見えてきます。それに反して、
さほど広くない社長室は、まるで空気そのものが、輝いている。そう思いました。

私は成功する経営者を数多く見てきました。彼らの共通点の一つは、“労働観、死生観、そしてその集成である
人生観をどんな未熟であれ、もつ努力をする”という点が挙げられます。

大切なのは、そのきっかけを誰がつくってくれるかです。私にとって、その種子は、間違いなく船井先生によ
って心のなかに植えつけられたのです。

人生のスタートは、自分の生まれた目的、そして働く目的を探究しようとしたときに始まります。
常々思うのです。家庭のなかの子どもたちに、そして企業のなかでは後輩たちに、生まれた目的、そして働く
目的を語りかける自分でいたい。それは、先生との最初の出会いで実現したことです。

「君にも役割がある」どんな役割だろうか？
そのことが頭のなかでグルグルと駆け巡っていました。生まれてきた役割、これから自分が果たすべき役割。
22 年の人生で、一度も考えたことがなかったことでした。
不思議な高揚感が身体のどこからか沸いて出て、立ち上がってしまいたいほどでした。

人間はなぜ生まれ、なぜ死んでゆくのでしょうか？と聞かれた船井幸雄は何と答えていますか？

()

成功する経営者の共通点の一つは何ですか？

()